

題

『あの日 あなたが 校舎を 燃やした?』 作、佐藤俊一

時

現代

所

某女子高演劇部室

登場人物

長谷川（演劇部員、二年、中沢八重子役）

阿部（演劇部員、二年、部長、中沢八重子の担任役）

池野（演劇部員、二年、家庭科の先生役）

富田（演劇部員、二年、演出）

半田（演劇部員、二年、鈴木役）

菊池（演劇部顧問、国語科教師、三十才くらい）

伊藤（演劇部員、中沢の同級生・女囚役、ナレーター）

演劇部員たち、劇中劇の生徒たち、ナレーター

幕開き DO

ナレーターたちにスポット。

N 1

【鈴木れい子 昭和二十年高女卒】

思えば、昭和十六年の四月に私は県立第一高等女学校に入学致しました。当時は県下でも五年制の女学校は私達の学校のみで、木造建てのゆったりとした建物が堂々としてその風格を構えていました。校庭に出ると、春には土手の桜の木が美しく、桜吹雪の中を友と語らいながらよく散策致しました。

N 2

【高橋嘉代子 昭和二十年高女卒】

当時の母校は香澄町（今の市民会館付近一帯）にあり、第一女学校、女子師範学校、女子附属小学校、付属幼稚園と大所帯で、設備も整った伝統ある学校であった。当時東北一と言われた体育館は鉄筋で姿がうつるようなピカピカな床。その体育館で先輩達がバスケットやバレーを練習している。おかっぱ頭で入学した私達は、三つ編みにした長い髪、女らしさの中にきびきびした先輩の動きを見て、あこがれたなあ、入学ができてほんとうによかったと思った。

N 3

【山形新聞 昭和十九年二月二十四日】

昨二十三日午後七時十五分頃、本校舎内より出火した山形市第一高女校の火災は、急遽出動した全市の警防団をはじめ近接各町村警防団、その他北部第十八部隊、若き師範男子部、男子中学校の学徒報国隊の必死の消火作業も、水利の便悪しきため活動意の如くならず、見る見るうちに本校舎をはじめ講堂、体育館を全焼の上、猛火は更に隣接の山形師範学校女子部本校舎に類焼、これも遂に全焼。その他付属建物都合三棟を灰燼

に帰して、同九時三十分頃漸く鎮火した。

スポット消える。

第Ⅰ場

明転

演劇部室

旧校歌（一番のみ）を歌う部員たち。服装はまちまち。もんぺの生徒もいれば、冬服のセーラーの生徒もいる。

富田

ハイ。だいぶ歌えるようになりました。歌詞見ないで歌えるようにお願いします。

部員たち

はい。

部員A

「ひつぎのみこ」って何ですか？ 柊って…

富田

皇太子のことだって。柊って、お前…。世の中を受け継ぐんだよ。

半田

これ、どの場面で歌うの？

長谷川

まだ決めてない。でもどこかで必ず歌うから、練習よろしく。

部長阿部と顧問の菊池先生入ってくる。阿部はもんぺ姿。

菊池先生
おはようございます。

部員たち
おはようございます。（と整列する。）

菊池先生
校歌、聞こえたよ。上手になったね。でも歌詞の意味、よく理解して歌ってね。

これ、事件のこと調べるのに役に立つと思うから。古い同窓会名簿とか、記念誌とか借りてきた。大事に見てね。実際あったことだから、できるだけ当時の資料にあたって調べた方がいいわ。

富田
ありがとうございます。

長谷川
今のところ、『百年史』と『山形県警察史』が資料だからね。これ詳しいけど、なんか警察の捜査がすばらしかつたって自慢話みたいな感じ。

富田
その『警察史』、すごく詳しいよね。さすが警察って感じ。

阿部
これ以外に新しい情報ある人、いますか？

池野
はい、友達のおばあちゃんから、同級生と三角関係になって、負けておかしくなったって聞いた。

半田
三角関係の相手は先生らしいよ。

富田

えー、意外と進んでるんでない。それ調べよう。

池野

試験の日に放火したんでしょう。自分の学校丸焼けにするなんて、どんだけ試験嫌いだったんだ。

菊池先生

まずは県立図書館で新聞のマイクロフィルムを見ること。あと卒業生への電話インタビュー。これはお金がかかるから部費で出します。電話はテレフォンカードでかけてください。卒業生は皆さん八十才を越えてますから、もしかしたらお亡くなりかも知れないのでそのつもりでね。

阿部

高等女学校は昭和十七年卒業、師範学校女子部は昭和十九年卒業の方を見ればいいです。電話番号の分からない方は番号案内で確認してください。電話はこのマニュアルでかけてください。（紙を配る。）

菊池先生去る。

富田

では、場練始めます。放火のシーンです。
ナレーション入ります。スタンバイ、スタート。

N 1

昭和十九年二月二十三日、夜六時五十分頃、中沢八重子は学校の前に来ました。当時の山形市はまだ灯火管制も厳しくなく、街灯はついてしたが、当日は月齢二十九の新月で月はなく、曇りのため星も出ていない。

長谷川（中沢）

…真っ黒だ。学校も、世の中も、私の心も、真っ暗だ。明日は最後の試験。できなかつたら、卒業させてもらえな

N 2

【県警察史】

い。落第なんて恥ずかしいし、卒業できないと、国民学校の先生になって、子どもたちを教えることもできない。闇の中にそびえ立つ二階建の校舎は、翌日から行なわれる期末試験の成績を暗示するかのようには八重子を威圧していた。それをみた八重子は、校舎を焼くのは今だと考えた。そして暗闇の中を急いで校門に入り、宿直の先生や小使さんを警戒しながら、通いなれた体操場の出入り口から入り、東側に続く理科室（当時の呼び方だと物象室）に忍び込み、あり合わせの紙片を丸め点火して、窓辺に垂れ下げた暗幕の下に置いた。

長谷川、手探りで机の上の紙を丸めて暗幕の下に置き、マッチを擦る。

長谷川（中沢）

燃えてしまえ、こだな学校。こだな世の中。私の心も、みんななくなってしまえ！

長谷川、身を翻して走り去る。以下、ナレーションに合わせた動き（仕方芝居）をする。

N 3

【県警察史】

学校を逃げだした八重子は、犯行を行なった後ろめたさから、いつも通いながっている山形駅から乗車することができず、北山形駅から乗るつもりで、香澄町大通り（今のスズラン街）を逃げるように下って行った。しかし結果が気かりで、至誠堂病院の前で初めて立ち止まって後を振り返って見たところ、その時学校の方にあたって空が焼けて明るくなっており、人々の叫び声が聞えていた。そして追われる者のように道を急ぎ、北山形駅に着いたが、駅前派出所の巡査の姿を見て急に恐ろしくなり、北山形駅からも乗車せず急いでそこを逃げ出し、また歩いて北に進み、千歳駅から乗車して自宅近くの駅で下車し帰宅したのである。

その間、千歳橋を過ぎるところからようやく心も落ち着き、学校の方を振り返って見ると、空は赤くなって火が燃え続けている様子であったという。

富田

はい、カット。どうですか。

池野

そうねえ、この台詞どうなんだろう。説明的すぎるんじゃない？ まあ、前よりは短くなったけど。

富田

台本の問題ですか。

長谷川

説明はナレーションに回したんだけど。

池野

ナレーション、長いしょ。ただでさえうちの劇はラジオドラマみたいだって言われるんだから。それに至誠堂病院だの千歳橋だのって、聞いたって分かんないでしょ、一般の人。あと内面っていうの、感情がさ、生っていうか、今のだと、なんか言い過ぎっていうか。

阿部

でも放火する動機がはっきりしてる方がいいんじゃない。

池野

はっきりしてんのかなあ。

富田

卒業試験ができそうにないから、受けたくないってことでしよう。

池野　それだと、今の私らの気持ちと変わんなくて、安っぽい。

半田　追試、嫌だったか？

池野　私は追試ふけないでちゃんと受けてます。

長谷川　うん、そこはね、私もあんまり納得できないで書いてんの。私らとダブらせていいものか。

阿部　やっぱ、動機が一番知りたところだね。本当に試験を受けたくないだけだったのか。

この場面、まだ演出する段階まで行かないみたいね。池野はどう変えたらいいと思う？

池野　だからさ、この場面って要るのかなあ。

阿部　えー、ここがクライマックスなんでしょう。

池野　でもこれ、この火付ける場面なくてもさ、芝居にできるんじゃない？

長谷川　じゃ、どこで中沢さんの気持ちを出すの？

池野　だからさ、私ら、こんな格好してまで当時の生徒の心情に迫ろうってしてるじゃない。でもさ、六十六年前の人の気持ちって、どうなの？　分かれるの？

阿部 完全に理解するなんてできないよ。でも、近づく努力はしないと。

長谷川 授業でやったじゃない。戦時中の暮らしの体験って。そりゃ、電気消してもすいどん食べても、当時の人と同じ感覚じゃないと思うよ。けど、やっぱり実感ってあるんじゃない？

池野 いいけどさ。これ他の人どう見てるか知ってる？ 笑われてるんだよ私たち。

阿部 劇ができたら分かってくれるよ。

池野 いいけどさ。

長谷川 また、考えます。ナレーションも短くします。

阿部 次行こう、次。

暗転

ナレーター スポットに入る。

N1

【山形地方気象台の記録】

昭和十九年二月二十三日水曜日の山形市の天気。曇り。最高気温三度、最低気温マイナス七度、降水量〇、四

ミリ、積雪三十二、九センチ、日中は降水無し、雪がちらつく、霽っぽい天気。二十四日木曜日、曇り、最高気温一、三度、最低気温は午前五時二十五分に記録、マイナス九、五度。

N2

【黒田 久子 昭和二十一年高女卒】

私の家が学校の近くにあったものですから、校舎が次々と赤い炎に包まれて焼けていくのが見えました。恐ろしさにふるえ、泣きながら見ているより他はありませんでした。厳しい寒さのため水も凍り、消火活動も充分ではなかったようです。一夜明けて登校した私達に、当時の小野左恭校長先生が、蒼白なお顔で「落ちぶれて袖に涙のかかる時人の心の奥ぞ知られる」という句を引用されて、内外から寄せられた好意に感謝しながらみんなしつかりするようにと話されました。校舎の殆どを焼失し、この時から私達の苦難の時が始まりました。何日も焼け跡の片づけをしました。図書室の焼け跡は、掘っても掘っても本の紙の灰が重なっていました。

N3

【山形新聞 昭和十九年二月二十四日】

火災事件については山形署に於いて、時局下事態を重視し発火原因並に損害その他について鋭意捜査取調中であるが、当夜高女校本校舎に当直せる布施教諭及び小使並びに師範女子部当直金子教諭その他の学校関係者の供述するところより見て出火の発見が意外に遅かった事実、それがため出火地点等の中心点については極めて要領を得ないので、極力この点の究明に努めている。当時の事情を総合し、失火による事だけは何人も認めながら、詳細は今尚不明である。

第Ⅱ場

スポット消え、明転

くつろいでいる部員たち

半田 放火の後、千歳駅まで歩くんでしょう？ その間に目撃されてたのかな？ その時間のアリバイを証明できた

ら無罪だったよね確実に。

阿部 そこだね。はっきりアリバイを証明できる人がいなかったというのがまずかったね。

長谷川 叔父さんとか家族とかの証言じゃダメなんだよね。

半田 裁判の資料が残ってればねー。五十年くらいしか保管しないんだって。

池野 五十年とつてあつたらたいしたもんじゃない。六十六年後に読もうっていう方が間違いでしょ。

富田 はい、休憩終わりー。次の場面いきます。中沢さんが本校舎の洗濯室で、自宅から持ってきたお米を炊く場面。
七輪と鍋、出して。

一年生、小道具を用意する。

富田 いきます。スタンバイ、スタート。

池野（先生） 何をしてるんですか！

長谷川（中沢） （驚いて）え！ あの、これは、

池野（先生） それ、ここで炊いて、食べようというんですか？

長谷川（中沢） いえ、私のでなくて、これは、お昼を持って来らんない方のために…

池野（先生） あなた、ジキョクをなんと心得ますか。

長谷川（中沢） はい。時局下、毎月一日には八幡神社はちまんに参拝。毎週水曜日には、日の丸弁当を持参します。

池野（先生） そうです。毎週水曜日は日の丸弁当を食べて、コーアホーコー、（あほーだっという声）日本の必勝を祈り、兵隊さんたちのブウンチョーキューを祈るとともに、食糧事情にカンガミ、贅沢な食事を慎むというのがその目的です。

長谷川（中沢） はい、分かっています。ンでも近頃は、日の丸弁当でも、白米のご飯持って来られる人はめったにないです。みんな、麦だの菜っ葉だのいっぱい混ぜてあります。ンでも私の家は百姓ですから、米には不自由しません。ンだから私…

池野（先生） 思い上がらないで！

長谷川（中沢） はい。

池野（先生） 自分が白米に困らないからといって、人様にめぐんでやろうなんて考えは、思い上がりです。ゴーマンです。

長谷川（中沢） はい。

池野（先生） こそこそ隠れて、同級生のカンシンを買うために米を研いでいる。あなた、自分のその姿を、なんと思うのですか。

長谷川（中沢） はい。

池野（先生） そんなことで、四月から国民学校の訓導になれますか。

長谷川（中沢） はい。

池野（先生） アマツサエあなたは、二学期末の試験で不正をしてるんですから。

長谷川（中沢） それは、だから何度も申し上げました。

池野（先生） 口答えしないで！ いいですか、この学校は、明治時代にはカンインノミヤ殿下、さらにトーグー殿下すなわち大正天皇様、大正時代にはセツショーノミヤ殿下すなわちキンジョー陛下のギョーケーを仰いだほまれあるまなびやなのです。そこで学ぶ生徒が不正をするなど到底許し難いことです。

部員たち、池野の口調に笑いをこらえている。

池野、この辺りで同級生数名が洗濯室を覗いているのに気づいて。

池野（先生）
何ですかあなたがた。

半田（鈴木）
いえ、割烹室の方から声が聞こえたものですから。誰かいるのかと思って。

池野（先生）
最近、割烹室のガスを使って勝手に煮炊きする生徒がいるので見回りに来たのです。あなたがたも何しに来たのだから。

半田（鈴木）
（手に持ったナベを後に隠し）きつと、寄宿舎のご飯だけでは足りないんだと思います。毎日毎日、麦飯と菜っ葉の味噌汁とアミの佃煮ですから。

池野（先生）
給費生の身分で何を言うのですか。あなたがた、学費も何もみなお上から支給されたうえに、月十四円のお小遣いまでいただいているのですよ。

半田（鈴木）
はい。

池野（先生）
このことは、舎監の先生にお伝えしておきます。

半田（鈴木）
ええー…はい。

池野（鈴木）
本当に情けない。

富田
はいカットー。集まってください。みんな口回ってないし。昔の言葉の意味、よく理解してください。「閑院宮」とか「歆心」とか。

阿部
別に今も使うんでない？ 「歆心を買う」とか。

池野
すみません。ばかなんです私。

富田
じゃ、各自台本読み込んでください。二十分まで。

部員たち
はい。

部員A
十四円って、今のいくらぐらい？

部員B
わかんないけど、千倍として、一万四千円くらい？

部員A
いいねー。私も「給費生」になりたい。

部員B 麦飯食えるの？

部員A 麦って、パンのもとでしょ、食えるんじゃない？

部員B それ小麦。

部員A 違うの？

部員C でもさー、市民会館から千歳駅ってどのくらいあるの？

部員D 四〜五キロはあるんじゃない？

部員C 夜さ、二月の寒ーい時にさ、歩く？ 五キロ。一時間以上よ。

部員D 昔の人は歩いたんじゃない？ 蔵王に麓からスキー持って登ったって書いてあったみたいだけど。

長谷川 この米、どうする？

池野 この際だから、炊いて、食べよう。体験、体験。

部員たち、七輪に角材の切れ端などをつめる。

半田　　これ、どうやって火つけるの？

富田　　上に紙のせて火付けたらいいんでない。

半田、七輪に燃料を入れ、火をつける。七輪にナベをのせる。やがて煙が出始める。

半田　　なんで煙出るの？　いや、けむー。

阿部　　半田、何してるの？

富田　　七輪の下のとこ開けた？

阿部　　これ、やばくね？

部員たち騒ぎ出す。

SE　警報ベルがけたたましく鳴り始める。

池野　　やっぱー！

長谷川　消してよ早く！　消して！

みな大慌て。半田、ナベをおろし、七輪をしゃもじでむやみに突く。池野が半田を押しつけ、水筒の飲み物をかけて消す。なんとか煙が出なくなる。

顧問の菊池先生ともう一人の先生が部屋に飛び込んでくる。

菊池先生

どうしたの！

阿部

だいじょうぶです！ 消しました。（と七輪を示す。）

菊池先生

消しましたって、何？ 七輪？ （七輪の消火を確認して）なんで部屋の中で七輪なの？

（もう一人の消火器を持った先生に）ああ、火事じゃないって報告してください。七輪の煙だったって。お願いします。（部員たちに）いったい何をしてるの。説明して。

阿部

ですから、中沢さんの行動を再現して、疑似体験しようと思って、ご飯事件の再現です。

菊池先生

ああ、…でもさ、何も煙感知器の真下でやることないでしょう。

SE 警報ベル止まる。

野次馬の生徒が大勢、入り口から覗いている。

菊池先生

さあ、関係ない人はもどってもどつて。何でもなかったんだから。（野次馬たち、ぶつぶつ言いながら去る）

疑似体験はいいけど。あなたたちこのままいったら、最後の所まで再現しかねないわね。

池野

最後のところって、まさか。しないですよ私たち。

菊池先生

（座って）教頭先生に全部説明しなくちゃ。

さて、どうしてこの事件を取り上げてお芝居にしようとしているのか、もう一回確認しておきましょうか。はじめに言い出したのは、長谷川よね。

長谷川

はい。あの日校舎が燃えたってことはみんな知ってます。でも、生徒が火を付けたってことは、なぜだか話題にするのをためらってるみたいで、誰もはっきり言わない。みんなの心の奥の方に沈んでるこのもやもやした気持ちを、はつきりさせて、晴らしたいんです。

池野

私、別にもやもやしていなかったけど。

菊池先生

みんなが話さないのは忘れてしまいたいからでしょう。だって、汚点だもの。それに校舎がなくなったせいで、先輩方がどれだけ苦労したか聞いてるでしょう。

長谷川

先生、私この本読んで、全部分かった気になってました。でも当時の新聞記事見たり、卒業生の方のお話お聞きすると、中沢さんが放火したって信じられなくなっただけです。もしかしたら本当は違うのかも知れません。

菊池先生

そんなこと…今さら。もう二世代も経ってる。亡くなった方も多いでしょう。

ここらがやめ時なんじゃないかな。忘れてしまった方がいいこともあるんじゃないかしら。

阿部

先生、よく調べた方がいいって言うてくれたじゃないですか。それに、ここでやめたら、私たちの取材活動が無意味になってしまいます。

半田

そうです。あんな苦勞して聞いて回ったのに。

菊池先生

分かったわ。でも約束よ。危険なことではない。そして台本は、証言してくれた方に迷惑のかからないように。当時の人たちの名譽ってものがあるんだから。できるの？

阿部

約束します。やらせてください。

暗転

第三場

(ご飯事件2)

スポットにナレーター

N

【山本 林 第十代校長】

私が山形師範に女子部長として赴任したのは、昭和十九年七月のことであった。

着任してみると、校舎は全焼したが寄宿舎は焼けずに残っており、生徒は寄宿舎の狭い一室に一学級ずつ畳の上に座り、粗末な長机に向かって授業を受けていたのであった。名門校の生徒なのに、いかにも窮屈そうで可哀

そうで何とも言えぬ気持ちであった。それを思うとやはり校舎を焼いてしまった火事が憎かった。

火事は師範の一生徒が放火した結果であった。しかしそこまで至る過程については、あまりはつきりせず、どういうわけかこの女生徒に同情が集まり、何か学校側にそれを誘発する原因があったように言われていた。

スポット消え、明転

長谷川、同級生数名とご飯を炊こうとして準備を始める。長谷川は、布袋に入った白米をザルに出して研ぎ始める。米は本物、水はない。火をおこす者、鼻歌など。そこに家庭科の先生が入ってくる。

池野（先生）

何してるんですか！

生徒たち

（驚いて）え！ あ、これは、

池野（先生）

それ、ここで炊いて、食べようというんですか？

長谷川（中沢）

これは、私が、お昼を持って来らんない方のために…

池野（先生）

中沢さん、時局をなんと心得ますか。

長谷川（中沢）

はい。時局下、みんな、贅沢を慎んで、毎週水曜日には日の丸弁当を持参します。

池野（先生）

そうです。毎週水曜日は興亜奉公、日の丸弁当を食べて、日本の必勝を祈り、兵隊さんたちの武運長久を祈るとともに、食糧事情に鑑み、贅沢な食事を慎むというのがその目的です。それを忘れて、隠れて白いご飯を食べようなんて…

長谷川（中沢）

はい、すみません。ンでも近頃は銀舍利…白米のご飯はめったにないです。みんな、麦だの菜っ葉だのいっぱい混ぜてあります。米がなくて芋や南瓜持つてくる人もいます。ンでも私の家は百姓ですから、米には不自由しません。ンだから私…

池野（先生）

思い上がらないで！

長谷川（中沢）

…。

池野（先生）

自分が白米に困らないからといって、人様にめぐんでやろうなんて考えは、思い上がりです。傲慢です。

長谷川（中沢）

…。

池野（先生）

こそこそ隠れて、同級生の歓心を買うために米を研いでいる。あなた、自分の姿をどう思うのですか。

長谷川（中沢）

先生。私は傲慢ではないです。思い上がってもいいんです。

池野（先生）

ええ？

長谷川（中沢）

うちは百姓ですから、この米作るのにどれだけ苦勞してるか、よく分かります。じいちゃんや父ちゃんや母ちゃんが、田んぼの泥の中這いずり回って代掻きして、腰曲がるほど田植えして、草取りして。病氣だの台風だので泣きながら作るんです。

池野（先生）

それがどうしたの。

長谷川（中沢）

百姓が苦勞して作って、お国さ出す米が、なしてみんなの口さ入らないんでしょう。

池野（先生）

ちゃんと皆さんに配給されてるでしょう。

長谷川（中沢）

配給足りないから腹減るんでないですか？

池野（先生）

ええ？ あなた、国策を批判するの？

長谷川（中沢）

批判でないです。こちらが食う分の米、ひもじい人さ分けて、食べてもらいたいです。…黙って学校で炊いたのは謝ります。今朝急に思いついたものですから。うちで炊いてくれれば良かったんだけど。

池野（先生）

あなたって人は…。不正をするような人は違うわね、やっぱり。

長谷川（中沢）

私は不正なんかしていません。

鈴木ら同級生　先生、私らが悪いんです！　腹減った腹減ったってばかり言って、中沢さんは家が農家だから白いご飯が食べ

られていいねって言ったから…

池野（先生）　隠れて火を使って、火事でも起こしたらどうするんですか。

鈴木ら同級生　すみません。

池野（先生）　舎監の先生にはこのことお伝えしておきますから。

半田（鈴木）　ええ？　二度といたしませんから、

富田　カット。

だいが変わってきましたね。どうですか。

阿部　中沢さんの主張がはっきりしてきていいんじゃないですか。

池野　ところで、どうして中沢さんだけ二十一才なの？数え年なの？

長谷川　確認していないけど、高等小学校出てから女学校に入ったんじゃないかって。それだと二年余計になる。

阿部 尋常小学校が六年で十二才、高等小学校が二年、高等女学校が五年、師範学校本科二部が二年で計算が合う

でしょ。

池野 昔の高等女学校って、今の中学と高校合わせた学校なんだー。

池野 ところであの三角関係の話さ。

半田 ああ。

池野 昨日聞いた話だと、無いわ。

半田 そう？

池野 だって、同級生の山口さんと石山先生ってもうラブラブだったらしいよ。ていうか、山口さんの方がすごく積極的だったみたい、下宿してた旅館に行ったりして。だから割り込む余地無いわ。逆にその先生のこと嫌いだって言うてたらしいよ。

阿部 二人はその後結婚しているし。知らないで電話しちゃったよ、私。

半田 何か言ってた？

阿部 中沢さんのことは知ってるって。それだけ。三角関係の話知ってたら突っ込んだのにね。

半田 同級生が作った家の模型を、中沢さんが盗んだって話は？

池野 ああ、盗まれたけど寄宿舎の入り口に返してあったっていうんでしょう。

富田 なんかよく分かんないよね。

長谷川 当時の工作の時間は、大きな模型飛行機ばかり作ってたっていうよ。だから家の模型を作ったかどうか分からないし、高等女学校の時なのかなあ。何かの勘違いじゃないのかなあ。でも、中沢さんに対してあまり良い印象を持ってない人がいるってのは確かね。

富田 うーん。分からない。三角関係の話も今の盗みの話も、あの事件があった後に出てきたんじゃないかなあ。後付けで。

半田 六十六年の間に、みんなの記憶もあいまいになってるんだね。

阿部 じゃあすべての発端になったカンニングの場面やります。

第Ⅳ場

(カンニング後)

富田

十二月の期末試験で、監督していた家庭科の先生が突然、「カンニングしたでしょう！」と言って中沢さんを校長室に連れて行きました。校長室から帰ってきたところから。スタンバイ、スタート。

長谷川(中沢)教室に戻ってくる。疲労困憊の様子で自分の机に座り、突っ伏す。

伊藤

八重ちゃん！　だいじょうぶ？　あの先生、おつかない顔して引っ張って行ったから、心配してたの。

長谷川(中沢)

…なして、なして私の言うこと信じてけねの？

伊藤

校長室で何言われたの？　ずいぶん長かったけど。

長谷川(中沢)

…私みたいな人でなしの恥知らずは、教員になる資格はないって…(泣く)

伊藤

ひどいこと言うねえ。あの先生、みんな好かないんだよ。

半田(鈴木)

私ら、みんな信じてるよ。八重ちゃんカンニングなてしねたて一番だも。するわけないべず。

長谷川(中沢)

私、明日からどうやって学校さ来たらいいの。

伊藤 何言つてだの。別に退学だの停学だのされるわけでないでしょ。何の証拠もないんだもの。

半田（鈴木） ンだよ。

伊藤 担任の先生も、中沢に限ってそんなことするわけないって言ってくれたんだよ。
校長先生はなんておっしゃったの？

長谷川（中沢） ……明日、校長室でもう一度試験するって。

伊藤 ンだらそこで点数が悪かったらカンニングしたってことになるの？

長谷川（中沢） 私、してねってこと証明する。

伊藤 ンだ。八重ちゃんだら、いい点とって、あだな先生見返してやれっず。

半田（鈴木） ンだ。私らみんな八重ちゃんのこと信じてっから。

長谷川（中沢） ありがとうみんな。

担任の先生が入ってくる。

生徒たち

先生。

阿部（担任）

八重さんとお話がありますから、みなさん、はずしてくれますか。

生徒たち

はい。（と下がる。）

阿部（担任）

八重子さん。大変でしたね。大丈夫ですか？

長谷川（中沢）

はい、ありがとうございます。なんとか、大丈夫です。

阿部（担任）

そう。でもね八重子さん、先生の言うことに逆らったりしてはいけませんよ。

長谷川（中沢）

逆らってはいないです。してないことはしてないというしかないです。

阿部（担任）

でも、先生が「した」と言ってらっしゃる以上は否定できないでしょう。

長谷川（中沢）

先生…。私本当にしていません。

阿部（担任）

何のおとがめもなく済ましたいと校長先生もおっしゃっています。「した」ということにしなさい。それが一番いい道です。他の先生方もみなさんそれで済ませようとお考えですから。

長谷川（中沢）
それで済ませるなんて、できません。

阿部（担任）
八重子さん、悪いことはありません。先生には権威というものがあります。それを傷つけてはいけません。あなたもすぐに教壇に立つ身ですから、それは覚えておきなさい。

長谷川（中沢）
生徒の、私の心は傷ついてもいいんですか？

阿部（担任）
あなたは今、生徒の身分です。先生に従いなさい。

長谷川（中沢）
分かりません。少し考えさせてください。

阿部（担任）
お家の方を呼んでも良いのですか？

長谷川（中沢）
呼んでもかまいません。私はやましいことなんかしていませんから。

阿部（担任）
…高女の四年生に、あなたの妹さんがいるのでしょうか。

長谷川（中沢）
…。

阿部（担任）
今穩便に事を済ませれば、ほとんどの生徒が知らないで過ぎてしまいます。妹さんが嫌な思いをすることもないでしょう。ね、事を荒立てないようにするのが一番良いと思いませんか。

長谷川（中沢） 先生…。

富田 はいカット。集まって。

ここさ、もつと優しくして、はじめの方。それでだんだん首絞めてくみたいな。

阿部（担任） ああ、はい。

池野 この担任で長谷川の作った人物だよね。

うん。

池野 こんな先生がいたから、事がこじれたっていうわけ。

長谷川 うーん、カンニング事件だけみれば、これで終わりにしても良いような気がするけど。この、優しさの陰に隠れてる、無理やり納得させようっていう悪意？ それがテーマなんじゃないかと。

池野 ばかには理解しにくいテーマね。

長谷川 当時の先生は全国の学校を転勤してくるエリートがいて、田舎の娘なんか馬鹿にしてる雰囲気もあったらしいよ。「そんなことしているとお嫁に行けませんよ」が殺し文句だったみたいだし。

阿部 当時の女子教育って、結局は女性蔑視で、赤子^{せきし}を産み育てる役割しかなかったのよ。

池野 何、「せきし」って？

阿部 赤ん坊。

池野 ああ…それ「あかご」って読めよ！

阿部 池野ー。

阿部 とにかく信じられない時代だったってこと。進めましょ。

富田 次行きます。鈴木と中沢さんの二人だけになった時。スタンバイ、スタート。

半田（鈴木） 私のせいでしょ。

長谷川（中沢） …ええ？

半田（鈴木） 私、できなくて、つい八重ちゃん的答案覗いてたの、八重ちゃん気づいたんでしょ。それで私の方見て、なんか言
ったよね。そのとき、先生に見られたんだよね。

長谷川（中沢）
…違うよ。そんなの関係ないって。

半田（鈴木）
私、最近何だか落ち着かなくて。先生からも「お前は弁当食いに学校さ来てるのか」「お前みたいなへなは、落第

させても嫁入りにひびくから、ところてんと同じに押し出してみんな卒業させるんだ」って言われて…。

何にも頭さ入らなくて。兄ちゃん出征して戦死してから、母ちゃんとばあちゃんと喧嘩ばかりしてるし。父ちゃんいてくれたら良かったのに…

長谷川（中沢）
そんなこと、私、知らないって！

半田（鈴木）
…ああ、そうだね。八重ちゃんに言っただけじゃないことだね。八重ちゃん年上だから、姉ちゃんみたいな気して…。ごめんね。（去る）

長谷川（中沢）
鈴木さん。

富田
はいカット。集まってください。

池野
これさ、この鈴木ってのが真犯人なわけ？

長谷川
まだ決めてないけど。

池野　この人の罪をかぶったって言いたいわけ？

長谷川　決まってるいって。

池野　決まってるないの。

富田　前のほうでもう少し鈴木と中沢さんの関係を出しておいた方がいいんじゃないかな。

長谷川　そうだね。考えてみる。

富田　どうですか。

半田　カンニング事件は明らかに間違いだったということね。

長谷川　中沢さんの人柄や、同級生の方の証言からすると、カンニングの事実はないとみるほうが正しいと思うの。だとしたら、なぜ先生がこれだけ強く主張するのか、そこが分からないのよね。

阿部　このカンニング事件がうまく解決していたら、後の放火はなかったはずよ。

池野　でも家庭科の先生が自分の見間違いだと認めることは絶対なかった。

半田　で、結局、校長先生以下、先生方もうやむやに終わらせようとした。

長谷川　中沢さんの心だけが傷ついたまま残された。同級生の方も、もっと何とかしてあげられなかったのかって、いまだにすまない気持ちで自分を責めている。

富田　時間だよ。

阿部　丸くなってください。

みんな集まる。

暗転

第Ⅴ場

スポットの中にナレーター

N　【山形新聞　昭和十九年三月八日】

昨三月七日午前七時五十分頃山形市香澄町県師範学校女子部第一寄宿舎隣接の紙くず捨て場兼物置小屋より突然出火し、正に大事に至らんとせるを、いち早く発見した学校当局では、職員生徒が駆けつけ消火に努めた結果大事に至らず、同建物を半焼鎮火せしめた。発火原因不明、損害軽微である。尚同校及び第一高女校

は去る二十三日焼失し、今以て出火原因が判明せず、各方面より非常に注目されている折から、再び同校より出火事件を起こした事については、学校当局はもちろん、各方面に異常な反響を巻き起こし、種々の流説さえ伝えられているほどである。今回の出火場所は平常は火気のない所であるだけ放火説が決定的で、或いは前回の火災事件と一脈相関連したものではないかとの説さえ伝えられており、所轄山形署では県刑事課と協力、兎角の風評ある同校内部や生徒及び周囲関係に徹底的な究明のメスを入れ解決すべく躍起となっている。

スポット消え、明転

教室で何か話している生徒たち。

登校してきた生徒(コートを手に持ち、風呂敷包みを抱えている)が入ってくる。

(生徒1)
また火事だつて！

(生徒2)
見た見た！ 寄宿舎の小屋、燃えてたよ。

(生徒3)
こないだも階段の下で火が出たって知ってた？

(生徒2)
聞いた聞いた。すぐ先生方が消したつて。

(生徒1)
これで生徒の放火だつて決まったようなものね。

(生徒3)
また試験の日に火事なもの、決まりよ。

(生徒2)

これ以上校舎なくなったら、勉強する場所なくなつず。私らはもう卒業すつからいいけど、一年生とか、高女の子は大変だね。焼け残りの体育館仕切つて、教室作たんだど。あだな、天井高くて声響いて、風呂場で授業しつたみたいなんだど。

(生徒1)

寄宿舎も、一部屋六十人くらいで授業してるんだつて！

(生徒3)

私、正門側通らないから分からないけど、大変なのね。

(生徒2)

今日の試験、どうなの？ また延期？ 卒業できんの私ら？

(生徒1)

なんか、刑事みたいな人たちが来ててさ、事情聴取の準備してるらしいよ。

(生徒2)

事情聴取？ 刑事から何か聞かれるなで、やんだー。試験は？ するのしないの？

(生徒3)

するのよ。それで生徒の反応見るの。

(生徒2)

反応？

(生徒3)

取り乱した生徒がいたら、き・ま・り。

(生徒2)
いやー、おかない私。聞いただけで試験なてできねじゃあ。

富田
カット。はい、いいと思います。

阿部
中沢さんが焼け跡の片付けをしている時に、「こんなことをしても犯人は捕まらないのに」と言ったとか、「腐った教育を再生しなければ」と言ったとか、いろいろな証言があります。

富田
公判の証言でも「腐った教育の再生」って言ってるようですね。

池野
校舎燃やすのが教育の再生になるのか？

富田
なるわけないでしょ。

池野
はつきり言えばいいじゃない。校舎に当たらないで、先生とかにガツンとき。

長谷川
当時の先生つて言えば別世界の人で、生徒は絶対服従でしょ。池野みたいには言えなかったのよ。

池野
私言つてないよ。

長谷川

はいはい。

富田

次の場面でーす。警察の内偵に対して証言する人々。用意してください。はい、スタート。

阿部（先生）

中沢：ですか。昨年末のテストでカンニングを見つかって。寛大なことに、なんのお咎めもなかったのに……。学校を恨んでいたんですねえ。逆恨みって怖いんですねえ。私だけじゃないですよ。職員の間でも中沢だって、そういう人がたくさんいます。

池野（先生）

中沢八重子ですか。いつか割烹室の裏の洗濯室で、隠れてご飯を炊こうとしているのを見ました。マッチも持ってました。私に注意された時の、まあその口の利き方、……。危険だと思いました、私。そうですよ、あの子に間違

いありません。
火元も、もしかしたら物象室でなくて割烹室じゃないんでしょうか。私、家庭科ですから、私に仕返ししようとしたんじゃないでしょうか。

でもどうして中沢の名前が出てきたのですか？（相手の発言を聞いてから）……。そうですか。

阿部、演出に指示を出す。

富田

はいカット。

阿部

長谷川ー、これさー、あんまり先生悪すぎでない？

長谷川 うーん、ダメかな？

阿部 カンニング事件は批判できるだけの証言があるけど、ご飯事件はこれ規則違反なんですよ。

池野 腹減ったら規則なんて関係ないでしょ。ねえ。

阿部 だいたい、ご飯事件が実際にあったのかも分からないんですよ。覚えてる人いないし。

長谷川 でも『警察史』に載ってるんだから、事実なんだろうけど。

阿部 その本も、一方的な所があるからね。もう一件の火事騒ぎのこと出てないし。

長谷川 そうなんだよね。三回続けて校内で火が出たとしたら、もう内部犯行に決まってるよね。でもこの本にのってない。

半田 ご飯事件どうすんの？

長谷川 ここまでご飯事件で台本作ったんだし、中沢さんが自分の主張できるのはここだけかなって。

阿部 それはいいよ。それはいいから、この先生の所、なんとかしようよ。

長谷川

でも、警察が三月七日以前に、もう中沢さんを容疑者と見ていたのは間違いないわね。それは学校からの情報提供があつたからとしか考えられない。

半田

新聞とか見ると、校長も警察も、すごいプレッシャー受けてたと思うよ。内部犯行って線が見えてきたら、じゃあ学校に恨みを持つてる生徒は誰だってことになるよね。

池野

カンニングを認めようとしなかった反抗的な生徒がいるってか。

半田

事情聴取の結果、中沢さんが浮かび上がったんじゃないくて、容疑者のしつぽをつかまえる為の事情聴取だった。

長谷川

そのことをはっきり出したいなと思って思った。

阿部

そうかー。

長谷川

当時の先生と生徒の関係って、今みたいに近くないし、見下してたところもあるんじゃない。

阿部

当時の先生の側からの証言があればいいんだけどねえ。

池野

生徒が八十代なんだから、先生、生きてないっしょ。

暗転

第Ⅵ場

（警察の取り調べを受ける中沢八重子）

明転

部室。中央の椅子に座っている長谷川（中沢）。普段着姿。

途中からゆっくり暗くなり、最後には長谷川だけがスポットとSSの中に残る。色があってもよい。

N

【県警察史】

小林司法主任は、とにかく中沢八重子の取調べが必要であると考え、いったん帰宅させた八重子を夜間再び呼び出したのである。相手は年若い女性であったから、当時としては異例の処置であり、署の乗用車で四キロの道を連行したのであった。こうしてその晩のうちに小林司法主任と刑事課武田主任警部補が取調べに当たったのである。小林司法主任は年若い娘が夜間警察に呼び出しを受けて取調べを受けるということは、それ自体精神的打撃が強く、驚きそして恐れおののくものと思いのほか、八重子は少しも動ずる色もなく、落着いて答えもはきはきしていた。そして取調官に対しては「私に放火をしたと言わせたいのだろう」と最初から挑戦するような態度であった。しかしいくら虚勢を張ってみても、正門前通りで学友に見られている姿を否定することはできなかった。その不利を悟ったものか、八重子は取調べ開始二時間ぐらいで、寄宿舎の放火を自供したのである。

長谷川（中沢）

私は駅前から香澄町大通りに入って、少し行った所の小道から東に上って、学校沿いの道を北に進んで正門から学校に入りました。正門前通りで会ったって言われても、何かの間違いだと思います。

長谷川（中沢）

確かに二人が別々の証言をしているのですね。それなら、正門前通りで見た人が見間違ったんだと思います。師範も高女もいっしょに登校するんですから人数も多いし、私みたいな平凡な体格の生徒は多いし、コートも同じですから、後ろから見たら間違うこともあります。

長谷川（中沢） 確かに私だったって？ そんな…。

長谷川（中沢） ええ？ 北側から寄宿舎に入って、火を付けてから東に抜けたって言うんですか？ その時間にはもう寄宿生も起きていますから、外から入ってきたらすぐに分かります。寄宿生に聞いてみてください。

長谷川（中沢） 私以外に動機のある生徒はいないって…。私に放火しなければならないどんな訳があるっていうんですか？

長谷川（中沢） カンニング…。それは誰から聞いたのですか。生徒からですか。先生からですか。

長谷川（中沢） 私はしていません。カンニングも放火も。

長谷川（中沢） 私にまたしていないことをしたって言わせるんですか？ 学校も警察も、私を犯人にしたいんですね。

長谷川（中沢） 私は試験が嫌で火を付けようなんて考えたことはありません。家庭科の先生から厳しく怒られたことについては、確かに理不尽だと思います。でも、それと放火とは別です。

長谷川（中沢） …もう二時間も同じ事を申し上げています。

長谷川（中沢） それは…私を信じてくれない、一方的にカンニングをしたと決めつける、そんな先生が憎かったです。

長谷川（中沢）

教育実習で仲良くなった子どもたちの顔が浮かぶだろうって？ ええ…先生になってまた会いたい。でも、私も師範のあんな先生のようになるのか、ならされてしまうのか、だとしたら、それはたまらなく嫌でした。

長谷川（中沢）

嫌だから火を付けた？ 嫌だということから火を付けたところまでは遠いです。

長谷川（中沢）

遠くても道は一本だって？ ああ！ どうしても私がしたって言わないと済まないんですね！

絶望する長谷川（中沢）。

長谷川のスポットが暗くなる。（あるいは色が替わる。）次第に暗くなって行き、ナレーションの最後に完全に暗転する。ナレーションのスポットは逆に次第に明るくなる。

N
1

【県警察史】

寄宿舎の「ぼや」は取調べの突破口であって、めざすは師範学校女子部の放火であった。そこで翌日は早朝から取調べを開始した。まず犯行の原因、動機から入って行つた。ところが八重子は詳細をきわめる原因動機の追及に、「主任さんは私に女子部にも放火したと言わせたのだろうか。私は学校には絶対に火を付けない」と食つてかかつて来たという。小林司法主任は語るに落ちた犯人八重子にじゅんじゅんとして非をさとしていった。放火がいかに大罪であるか。すでに成人に達している八重子にはそのことは理解されるはずであった。理解しながら放火するにはそれ相当の理由がなければならぬこと。物置小屋の放火も人が見付けて消し止めたから大事に至らず済んだが、もし発見が遅れていれば寄宿舎もまた全焼しており、結果的に消し止められたからと言って放火の責任はまぬがれないこと。その静かにさとする司法主任の言葉の前には、さすが強情な八重子も観念せ

ざるを得なかった。そしてついに犯行のいっさいを自供したのである。

N
2

【山形新聞 昭和十九年三月十日】

その後判明した所に依ると第一回の去る二月二十三日は退校後再び校内に忍び入り同校物象室に入りマッチをもつて大胆にも放火し炎々と燃え上がる母校を見て帰宅、その後素知らぬ顔で通学していたもので、去る七日朝は平常通り登校し、登校後人気のないのを幸い紙くず捨て場に入りマッチをもつて再び放火したのであるが、ちょうど前回の場合は火災の翌二十四日より卒業試験が始まる予定であった、放火の動機などについては詳細不明なるも卒業試験と何らか深い関係にあることだけは推定される。同被疑者は来たる四月には同校を卒業し国民学校の教壇に立つことになっていただけに今回の事件は非常に注目されている。

第Ⅶ場

（放火のシーン2）

N

【県警察史】

八重子は不得意の理科の勉強を見てもらうため、かねてから市内の叔父の家に通っていた。事件当夜の二月二三日も、放課後叔父の家を訪れての帰り道であった。山形駅に向かう道々翌日からの学期末試験のことが気掛かりであった。度重なる不始末から、家に帰っても落着いて勉強する気にもなれぬ八重子は、思い悩みつつしか通いなれた学校の所まで来ていた。時刻は午後六時五〇分ごろで、折から戦時中の灯火管制が発令され、街は暗やみの中に包まれて静まり返っていた。

明転 夜の地明かり（かなり暗い）

コート姿の長谷川（中沢）、暗い教室に入ってくる。すでに誰かがいる。

長谷川（中沢） 誰？ 鈴木さん？

影が驚く。顔は見えない。

長谷川（中沢） 門から入っていくのが見えたから、ついてきたの。あなた誰？ 師範？ 高女？

影の背後に火が見える。

長谷川（中沢） 何？ 何したの？

火がどんどん大きくなる。影は動かない。

長谷川（中沢） 早く、火、消さねど！

影 いんだ！ 燃えてしまえばいんだ、こだな学校！

長谷川（中沢） あんた、火付けたの？

影 ああ、付けた。ンだけど、お前だて同じだべ。なしてこだな時間に学校さ来た？ お前も学校燃やしたいと思って
いだんだべ！

長谷川（中沢）

あんた、誰！

影

私、…私はお前だ！
おれ

長谷川（中沢）

ええ！

いまや炎は燃え広がり、手のつけようがない。影の顔はそれでも見えない。

影、長谷川の横をすり抜けて走り去る。

長谷川（中沢）

あ、あんたは。

長谷川倒れる。

遠くから叫び声が聞こえる。

SE校舎の燃える音が響き渡る。

SE消え、静寂が訪れる。

長谷川の上にスポット。

長谷川、コートを脱いで起き上がる。下に青い着物を着ている。胸に番号。

女看守の声

「五百六十五番、中沢八重子！」

長谷川（中沢） はい。

SE 一気に盛り上がる

富田 はいカット！

SEオフ

明転。

富田 本番の市民会館ではスモーク炊きますから。照明さんそのつもりで考えてください。

部員 はい。

池野 この場面さ、意味分かってもらえるかな？

富田 黒い影の人の意味ね。

半田 中沢さんが火を付けたのか、他に真犯人がいたのか。結局どっちなの？

富田 今のところ、中沢さんはやっていないけど、自分の心の底にも燃やしたいって気持ちがあったことに気づくって

いう場面だと思います。

長谷川

心の中で思ったことも、実際にやったことと同じだっていうこと。

半田

そんなこと言ったら、私なんか毎日犯罪者？

池野

なんだよそれ。思ったらやれよ。

半田

中沢さんが犯人でないとして、他の誰かが火を付けたとしても、生徒しか考えられないじゃない。
結局、私達の先輩の誰かがやったことなんでしょう。

富田

つまり、試験大嫌いって遺伝子は私達にもあるのではないかと。

長谷川

私の推理、言っている？

最初の校舎を全焼した火事の原因は、放火ではなかった。でもその原因は解明できなかった。警察も学校も失火と断定できないことで批判を受けていた。そんなとき容疑者として中沢さんが浮かび上がってきた。警察はすぐに中沢さんを犯人と断定し、証拠をねつ造した。

半田

ねつ造？

長谷川

もう一度校舎で火が出たら、生徒を調べることができる。

池野
警察が放火したってか。

長谷川
学校も了解の上で小さな火事騒ぎを起こす。きっと二回目は小さすぎて失敗したのよ。

富田
三回目は延期されていたテストの日で、最後のチャンスだった。

長谷川
取り調べさえできれば、自白させることができる。

半田
それってえん罪じゃない！

長谷川
中沢さんは八年の判決を受けたけれど、二年で出所している。そして山形に帰ってきた時、裁判官と検事と弁護士と校長が、中沢さん親子を招いてお祝いの会をしている。

池野
なんで？

長谷川
みんなぐるだつてこと。

富田
ぐる？

長谷川
限りなく無罪に近い中沢さんを、自分たちの権威を守るために有罪にした。その罪滅ぼしじゃないかと。

池野

うーん。考え過ぎじゃない？　ありえないよ。

半田

その人たち、まだ若い中沢さんを本当に心配して集まったのかも知れないじゃない。その弁護士さんなんか中沢さんたちの面倒見ていたし、その後すぐに山形市長になった人でしょ。

長谷川

そうね。阿部にもそう言われた。生徒が犯人じゃないって思いたいから、こんな妄想しちゃうのかも。忘れて。

富田

次、栃木刑務所の場面。ナレーションからいきます。スタンバイ、スタート。

N

【山形新聞　昭和十九年三月十日】

そのうち生徒が電気やガスを用いて飯炊きまでしていた事実も判明し、一時は失火認定までこぎ着けたものの更にあらゆる角度から掘り下げた結果、失火と断定するには漸次薄弱となり、反面内部の放火と目せられる条件が次第に濃厚となってきた。このため生徒の放火と推定、容疑者の引致と捜査がとんとん拍子に進展していた矢先に火災で延期となった試験も七日から始まるので毎夜同校付近に潜伏警戒員を派していたところ第二回の出火事件が発生した。既に確信を得た捜査当局では一応全生徒の取り調べを行って傍証を固め犯人として東村山郡出羽村師範女子部二年青木トヨ(二十一才)仮名を検挙するに至ったもので県警察界として近來にないスピード検挙の殊勲事件として特筆される。

長谷川、囚人服の着物(青色)を着ている。足元は草履がのぞましい。同房の囚人も青い着物を着ている。何か二人で軽作業をしている。

背後の白板（黒板）に「涙は人生を救う　汗は貧を救う」と書いてある。
音楽背景に流れる。

そこに菊池先生と阿部が入ってくる。阿部、富田に指示。

富田

カット。

阿部

集まってください。

部員たち先生と部長に対して並ぶ。

菊池先生

練習中ごめんなさい。今、部長とも話したんだけど、昨日、中沢さんの妹さんの所在が分かったの。

部員たち

えー。

菊池先生

部長が電話したんだけど…。詳しいことは阿部から言って。

阿部

はい。結論から言うと、中沢八重子さんは健在だそうです。

部員たち

おー。（さまざまな反応。）

阿部

でも、連絡先は教えていただけませんでした。妹さんも当時のことは何も話せないということでした。

事件については、いろんな人から「お姉さんは教育の犠牲になったんだね」と言われたけれど、やったことは悪いことなので、それは申し訳ないことです、とそれだけ繰り返していました。

池野

それだけ？

長谷川

話していただけないのね、六十六年経っても。

阿部

それで、お姉さんのことを芝居にするのは、できればやめてほしいっておっしゃるんです。

部員たち

え！

富田

それどういうことですか。この劇やめろってことですか。

長谷川

「できれば」っていうことですよ。絶対やめろっていうんじゃないですよ。ここまで来てやめられませんよ。

菊池先生

今すぐに結論を出せって言っても無理でしょうから、明日までみんなそれぞれ考えてきて。

長谷川

考えるって、やめるかやめないかっていうことですか。そんなの決まっています。やります私たち。ねえ。

阿部

長谷川。長谷川の気持ちは分かるけど、中沢さんの身内の方の気持ちの方が大事でしょう？

長谷川

そんな、私たちは中沢さんが無実かも知れないと思っています。それが証明できるかも知れませんが。

菊池先生

あの事件は、公判でも本人が罪を認めているし、それは刑務所で償いが済んでいるわけだから、もう過去のことを忘れたいのかも知れない。

池野

私はどっちでもいいけど。ただ、今のやめたら、大会まで時間ないのにどうするんですか。

阿部

既製台本でやります。アトリエ公演でやった台本ならすぐにできると思います。

半田

あれですか。

長谷川

みんな、今の台本でやろうよ。私がんばって完成させるから。阿部、もう一回電話して頼んでよ。やらせてください。私たちの気持ちを分かってもらえば…

部員たち

…。

菊池先生

みんな、明日までよく考えて。明日話し合って、結論はそれからいいのよ。

菊池先生、出ていく。

池野

どうする？

長谷川
みんなは、どうしたいの？

半田
分からないよ。

阿部
今日はここでやめて帰ろう。

長谷川
待つて。この場面だけやらせて。

阿部
みんな、いい？　じゃ、やろう。

富田
はい、じゃあ今日のラストです。終戦直後、栃木の女囚刑務所に服役している中沢さんのシーンから。
スタンバイ、スタート。

同房の囚人
東京も川崎もみんな焼けてしまったって。川崎には山形から女学校の生徒が動員されてきてたんですってね。
妹さん、女学校でしたよね？

長谷川（中沢）
そう。動員されていたのは妹の下の学年で、あの大空襲で亡くなった人もいるんだって。妹は、学校やめてしまったけどね。

山形では女子師範も高等女学校も同じ校舎で勉強していたの。仲が良くてね、グラウンドでも体育館でも一緒に遊んでた。…あの子たち、きっと校舎をなくして、苦勞して勉強してたんでしょねえ。そのうえ、勤勞動員で

命までなくすなんて、かわいそうに…。

同房の囚人

ひどいですよね。老人も女、子供も、見さかいなく何万人と焼き殺すんだから。

長谷川（中沢）

山形はとうとう空襲を受けなかったって。あの懐かしい町並みがそのまま残ったのね…あの校舎以外は。もし空襲を受けていたら、あの焼け跡も、周り一面の焼け野原の中で目立たなくて、私の罪も見えなくなっていたかも知れない。…不謹慎ね、こんな考え。

同房の囚人

八重さん、本当に火を付けたんですか？

長谷川（中沢）

え？ どうして？

同房の囚人

私みたいに小学校もろくに行っていない者と違って、八重さんみたいな女学校出た人が、放火するなんて信じられないです。女子師範に行ってた人が自分の学校の校舎燃やすなんて。何かの間違いじゃないんですか？

長谷川（中沢）

あの校舎、本当に焼いてしまいたかったのよ。

同房の囚人

本当に、本当ですか？

長谷川（中沢）

（苦笑）何よ。ただ…二十歳過ぎた私が、なんかこんな教育受けていたらダメになるような、そんな気がしてたの。そんな気持ちで先生になって子どもを教えても、結局は戦争に行ってしまう。死んでしまったら意味ないじ

やない。そんなこといろいろ考えると、もう先が見えなかったの。そんなとき、あの事件が起きたの。

同房的囚人

「起きた」って、他人事ひとごとみたいですね。

長谷川（中沢）

時代は変わったんでしょう？ 五年、十年経ったら新しい校舎が建って、五十年経ったら、山形の町並みもすっかり変わって、みんな火事のことなんか忘れてしまうわ。たとえ校舎が燃えたことを覚えていても、誰が、なぜ燃やしたかなんて、考えもしないでしょう。それでいいのよ。

同房的囚人

八重さん…。

黙々と作業を続ける長谷川（中沢）。もう一人も仕方なく作業に戻る。

富田

はいカット。

阿部

今日はここまで。丸くなってください。急いで。

みな集まって丸くなる。

阿部

今日の部活はこれで終わります。気をつけて帰ってください。お疲れ様でした。

みんな

お疲れ様でした。

着替える長谷川。

三々五々帰り支度をする部員たち。

長谷川、泣いているようである。なぐさめる阿部。

池野、富田、半田、そんな二人を見るが、声はかけない。

音楽高まり

幕